

昭和二十二年三月至五月一日

衛生史編纂資料

第六方面軍軍醫部



0038

部隊行動の概要

1. 第六方面軍ヨリ第一回復員ハ三月二十五日行ハル本復員ハ計畫
 輸送ニアラズ前夜半突如中國側ヨリ命令アリテ決定シ一兵ニテ
 モ速カニ下航セントスル主旨ニ基キ行ハレルモノニシテ之ガ爲楊
 子ニ集結中ノ各部隊残留者、退院者等雜多ナル統制ナキニ
 十八ヶ部隊總員三四六名ニシテ未ダ復員準備モ未完成
 ノモノヲ急遽乗船セシメタル爲著シク混乱シ檢疫モ實
 施スルコト能ハズ乗船名簿サヘ無キ者ガ混入セシ狀況ナリキ
 同時ニ第六方面軍司令部上海先遣隊田邊中佐以下一〇三
 名日僑一三〇名モ出發セリ

2. 三月二十一日第六方面軍司令部ヨリ管内日本官兵歸還輸送一
 計畫ヲ武漢行營ニ提出セリ要旨左ノ如シ

(1) 餘剩外洋船舶ノ大部ヲ機ヲ失セズ武漢岳州九江方面ニ

轉用シ四月下旬以降本格的輸送ヲ開始概テ六月未迄迄モ七月未頃迄ニ之ヲ完了ス

(2) 各部隊ハ揚子江沿岸各集結地ヨリ乘船シ一舉ニ日本内地ニ直航輸送ス

(3) 入院患者ハ一般將兵トシテ輸送ス

(4) 乘船ノ爲ノ檢疫ハ各乘船地ニ於テ實施ス

(5) 日僑患者中重症者ハ軍ノ患者ト共ニ下航セシメ其ノ患者者附添家族ヲ同行セシム

了 曩ニ第六方面軍管内將兵ハ復員ノ爲上海迄行軍スルガ如キ計畫アリシモ左ノ通中止ス

漢字第二五号 通報 中華民國三十五年三月十四日

茲ニ中國陸軍總司令何應欽三月九日附價格代電ニ據レバ

「惟ニ湘鄂區日俘ノ上海港口ニ至ル行軍ノ件ニ就テハ曩ニ岡村寧次ヨリ申請

アリシリ依而既ニ船舶運輸ニヨルテ原則トスルヲ議定シ後勅總司令部ニ命ジ

東京小津船

陸軍
目下運輸計画中大ニ付移命ノ上承知スベシト通報スルニ付承知相成度
右通報ス

武漢地区軍官善後連絡部 岡部直三郎部長

井衛生

武漢行營參謀長 郭 熾

二、衛生機關業務ノ概要

一、三月末日ニ於テ第六方面軍醫部ノ編成左ノ如シ

軍醫部長 軍醫少將 齋藤 勳

部 員 軍醫中佐 永木俊一郎

同 藥劑少佐 毒島豊太郎

同 軍醫大尉 田中 敏行

部 附 軍醫中尉 小澤五一郎

同 軍醫少尉 高橋 恆夫

同 同 久保田 重次郎

同 齒科醫少尉 山岸 茂利一

0041

内田軍醫大尉ハ第六方面軍上海先遣隊要員トシテ三月二十五日上海ニ向ケ出發シ、手塚軍醫大尉ハ「アールバ性赤痢」ニテ第百五十八兵站病院ニ入院セリ

内田大尉ニ與ル軍醫部長指示左ノ如シ

内田大尉ニ與ル指示 昭和二十一年三月

統集團軍醫部長 齋藤少將

貴官ハ統集團先遣隊要員トシテ上海ニ先向シ總軍及第十五軍軍醫部ト不断ニ通信繋系シ概ネ左記事項ヲ管掌スベシ
任極メテ重シ貴官ノ活躍ヲ期待ス

- 一、上海ニ於ケル統集團隷下部隊ノ衛生指導殊ニ宿營地ノ衛生防疫検査ニ關スル指導ヲ行ヒ又漢口ヨリ上海迄ノ輸送間衛生上改善ヲ要スル事項ヲ下航輸送船毎ノ實情ニツキ調査シ統司令部ニ速報シ改善ノ資トナスベシ
- 二、統軍醫部ノ計畫ニ基キ統集團管内ノ患者ヲ速ニ上海ニ收

東京小澤館

容ムル如ク關係方面ト稱ク而シテ其ノ進進ニ努カスベシ

武漢地区重症者及傳染病患者數ヲ把握シテニ對シテ病院ホスルニ急ムル

ニ施設セル船舶ヨリ與回數上航セシメ此等患者ノ輸送ヲ促進スルヲ要ス

三、漢口ヨリ患者ノ輸送間ニ給養、船内施設其ノ他諸種ノ缺陷ニ關シテハ關係者

ニ連絡シ之ガ改善ニ努カスベシ

四、居留民中ノ重症患者ノ上海ニ於ケル收容機關内地ヘノ輸送方法ヲ調査スル

ト共ニ漢口ヨリ後送セラル、居留民患者ノ收容ヲ円滑ニ實施シ得ル如クテ

配ヲ行ハベシ

五、上海地区ノ傳染病流行状況ヲ知悉シ收容患者ノ防疫處置ニ適宜ナキヲ

期スベシ

2. 第百三十八兵站病院建物ハ中國武漢陸軍病院ニ供用セラル

爲四月ノ第一回患者後送時護送員トシテ同病院職員全

部ヲ下航セシムルコトトナリシルヲ以テ同病院ノ病理試驗部ハ

漢口檢疫ノ爲殘置セシムル必要アルヲ以テ左ノ通傳屬セシム

統通報第三三三號

病理試驗部轉屬ニ關スル件

昭和三年三月三日 武漢地之自來官兵善後運務部次長 中山貞武

武漢行營戰任管理處兼次長 劉倚嶺將軍閣下

第三百零八兵站病院復員ニ伴ヒ同病院病理試驗部ハ漢口ニ於テハ檢疫ノ

爲ニ第三百七十八兵站病院ニ轉屬シ現在地ヲ撤去シ檢疫業務ハ第三百五

八兵站病院江岸病院ニ於テ實施セシメ度ニ付御詠承相成度

3. 第六方面區管内ノ日本軍籍ニアリシ朝鮮人及台灣人ハ之ヲ漢

陽ニ收容シ韓台管理所ヲ設置シ中國ニ於テ管理セリニ同所

ノ收容人員ハ約二千ニテ内ヒ一百名ハ患者ナリ依リテ韓國側ノ要請

ニ基キ日本軍ヨリ衛生部將校以下ヲ派遣シ左ノ取キメニ下ニ勸誘セム

東京小津納

0044

韓臺管理所ニ日本衛生部員派遣ニ關スル協定事項

一 日本軍ヨリ派遣スル衛生部員ハ軍醫將校一衛生下士官一衛生兵

ニトス

二 勤務ノ第百十二兵站病院復員時迄トス其以前ニ韓國兵歸還スル場合ハ其武漢出發時期迄トス

三 勤務員ハ每週交代セシム

四 日本軍衛生部將校以下ハ博愛精神ニ基キ診療ニ遺憾ナカラシムルト共ニ
韓國側ハ日本衛生部將校以下ヲ尊重シ日本衛生部將校以下ノ衣食
住ニ關シ有テ便宜ヲ與ヘ絶對紛争ヲ惹起セザルコトヲ保證シ中國側

關係機關ハ之ヲ監督並ニ指導任スルモノトス

五 診療程度ハ日本軍部隊附軍醫將校ノ勤務ニ準ズ

六 日本衛生部將校ノ要求ニ基キ所要ノ衛生材料及診療施設ハ韓臺管
理所於テ準備スルモノトス

七 入院ヲ要スルモノハ第百七十八兵站病院ノ收容力ヲ顧慮シ同病院督察
官及病院長ノ認可ヲ得テ行フモノトス

八 中國側衛生機關整備ニ伴ヒ成ル可ク速カニ韓國入院者ヲ中國側衛生機
關ニ收容スルモノトス

右協定事項ニ違反スル場合ハ即時派遣ヲ中止ス

0046

昭和二十一年三月二十一日

武漢地區日本官英善後連絡部參謀長 中山貞武

韓臺空官理處長

韓國側代表

寫宛先

總務管理處 衛生處 韓臺空官理處 韓國側代表 金 112 118

善後連絡部(中助參事)

0047

各兵團ハ依然糧秣ノ補給困難ナル爲給養状況低下シ兵ノ
体力低下シ兵ノ体力低下著キモノアリ殊ニ威寧獨立歩兵第十
二旅團又黃岡圍風華容鎮寧ノ集結部隊ニ於テ甚シ加之
中國側ニ於テ米ノ收集困難ナル爲左ノ通報アリ

東亞報字第八三號

中華民國三十五年三月三日

代

電

後方勤務司令部湖北侯應向ヨリノ通信ニヨリ

近來交通不便ニテ漢口駐留部隊領ラ多量トナル爲食糧ノ支出不足シ
依而武漢行營會議ノ決定ヲ終テ本三月下旬ヨリ駐軍以外ノ戰俘食食ハ三
分ノ一ノ雜穀ヲ以テ配當スルモノトス
依テ右所屬ニ轉報通知相成度

連絡部宛

武漢行營第一戰俘管理所兼所長 林 映 東

0048

四、一般及衛生關係涉外事項

三月一日中國ノ編成改正ニ依リ第六戰區ハ解消シ武漢行營ヲ設立ス管理處ノ名稱モ左ノ通表更ス

管書字第七〇號

中華民國三十五年三月九日

代電

軍事委員會委員長武漢行營二月二十七日附第一〇六九號代電ニ依リ第六戰區長官部ハ既ニ命ニ依リ解消該部所屬ノ戰俘管理處ハ三月一日ヨリ改メテ本行營ニ隸屬シ軍事委員會委員長武漢行營戰俘管理處ト呼稱ス

依而夫、文書ヲ以テ報告並通知スルモ特ニ通知スルヲ以テ承知スルト共ニ所屬ニ對シ承知セシメラレ度ト

右夫、文書ヲ以テ通知スルモ特ニ電報スルヲ以テ承知相成度

連絡部宛

第一管理所兼所長 林映東

東京小津精

0049

2. 居留民由、重症患者ハ輸送ノ現況上、重患者ト後送
ヲ共ニセシムルヲ可トスルヲ以テ左ノ通中國側ニ通報シ、留案
通許可アリ

統通報第三七二號

日僑重症患者ヲ官共患者輸送時同乘下航致サシメ度件

昭和二十二年三月十八日 武漢地ニ回空官共善後連絡部長中山貞武

國民政府軍事委員會委員長武漢行營戰俘管理處

兼處長 劉倚衡將軍閣下

現在日僑ノ重症患者ハ約四五〇名ハ患者ニ附帶セル家族ヲ含ムコトアリ之ヲ

特ニ次回官共患者輸送時同乘下航致サシメ度ニ付認可相成度

説明

一、本申請ニ係ル患者ハ重症者ニシテ一般日僑ト同乘セシムルハ困難ニテ且

一般日僑輸送前ニ之ヲ輸送コト實施セサレハ一般日僑ノ輸送ニ大ナル障碍ヲ

生ズベシ

二日僑患者ハ官兵患者ト異リ夫ハ家族ヲ有テリ

之ガ爲患者ト其ノ家族ヨリ別ニ輸送スルハ患者及其ノ家族共ニ大ナル苦痛
不安ヲ與フルハ明ナルヲ以テ是非共同行輸送致度

衡字第一三三三號

中華民國三十五年三月二十三日

通 報

貴統通報第一二一號受領セリ

復員開始ヲ待テ送送及輸送スルヲ許可ス 茲ニ回答スルニ付承知相

或度

右通報ス

武漢地区日本官兵善後連絡部參謀長 中ノ貞武

武漢行營戰俘及理處兼處長 劉倚綱

予豫テ衛生部及ノ歸國時ノ私物携行書類及醫藥器械ニ

東京小津納

0051

陸軍

關シ接洽中ナリガ左ノ通回答アリ

陸軍省字第七六九号

中華民國三十五年三月五日

代電

第十八軍司令部 二月二十七日附 臣谷字第九九八四号代電ニ依リテハ

嗣後日俘日僑ニテ医療關係ノ人員歸國時ニ際シ各々使用ノ痕跡ヲ悉一箇及

医療書籍小數携行許可方日本側ヨリ申請アルモニ世當ルヨリ以テ申請

通商手續スヘキ旨陸軍總司令部何應欽ヨリ京ハ廿五總領事ヲシテ代

電アリ依テ夫レ電達スルモ上記ノ如ク處理スベシト

右下令スルニ付遵守處理セラシ度

連絡新 宛

第一管理所兼所長 林映東

4. 患者ノ收容ニ關シハ復雜ナル手續ニ要シ收容円滑ヲ缺ク

場合多シ 即チ各兵團ヨリ入院豫定患者ヲ第六方面軍

軍醫部ニ打電ニ來リ軍醫部ニ於テハ病院ノ收容狀況ニ應

0052

ニ收容病院ヲ定メ衛生處ニ連絡シ其ノ許可ヲ受ケ各兵團
ニ回答シアリ然ルニ此ノ手續ヲ終ル事ナク後送スル部隊
アリ又豫定人員ヨリモ多数ヲ後送シ來ル場合アリテ其ノ
都度輸送担任者ト病院督察官トノ間ニ悶着アリ
之ク爲左ノ通報アリ

衛字第一三二四號

中華民國三十三年三月二十三日

通 報

仙桃鎮ノ患者三十六名ヲ第三病院ニ收容スルコトヲ許可ス別ニ病

院管理所ニ電報ニ收容ヲ命ジテ付承知相成度

貴部統通報第一九三號受領セリ

仙桃鎮患者三十名ハ本處衛字第一三四號通報ヲ以テ均シク武漢ノ後送ヲ

見合セアハルモ未ダ許可ナキニ壇ニ送致スルニ一回ニ及ベリ而シテ送り來ル

患者數ハ通報上ニ記載シタル額ヲ超出シタルハ特ニ病院ノ收容量ニ影響ナ

東京小津納

0053

陸軍

スルニナラス收容轉送ノ順序ヲ紊乱スルモノナリトモアレ該兵中病氣重キ
モハ診断ニシテ後收容ヲ許可ス病院兼管理處ニ電報ニ第三病院ニ收容
セムモ特ニ回答スルコト以テ承知スヘシ

台通報ス

武漢地区日本官大善後連絡部参謀長 中山貞武

武漢行營戰俘管理處首處長 劉倚衡

衡字第一一三五號

中華民國三十五年三月九日

通 報

本處病院管理所ヨリ概要左ノ如ク電アリ

「武漢区各病院收容能クハ甚ク微弱ナルニ付日方連絡部ニ對シ各部隊
ノ單體患者ハ暫時其原隊ニ留メ療養シ一部ゲ空間ニナリシ後
再々輸送加療スヘク傳達相成度ト」

惟フニ該事ハ実情ナルニ付由請ノ如ク處理方許可ヲ與フルモ特ニ傳染
病發生シタル場合ニ限り送院治療セムルヲ許可スルコトトセリ

0054

爾後ニ於ル患者輸送計畫且チ作製ハ別紙第一ノ中側ニ
提出ノ配船方ヲ通報ス

六衛生材料ノ狀況

四日元第十一軍大謀長ヨリ瘧病及マリア劑空輸方電報アリ
晝夜ニ準備シテ六万五千分ヲ八日九日迄空輸ス

八日一時内滑ナリシ補給業務ハ武漢衛生材料部ヨリノ派遣料
枝原隊復歸以來澁帯レ特ニサルハサン劑マリア劑
及アンノハ赤痢劑ノ補給悪ク部隊診療ニ支障ヲ生ジ

アルヲ以テ統通報第二四號ヲ以テ別紙ノ通總管理
處及衛生處ニ對シ補給ノ内滑化ニ關シ要請ス

同日元陸歩五旅團ヨリ悟醫電第八號ヲ以テ軍需品處理
調書調製ニ關シ照會アリ

十三日總管理處長ニ對シ日軍側補給業務援助ノ為第二補
給区司令部ニ藥劑將校一名派遣ニ關シ申入ル(統通報第二四號)

0056

同日元第十一軍ヨリ痘苗受領セル旨又衛生材料支領ノ爲武漢ニ
出張シアル内山大尉ノ其ノ後ノ状況照會ノ電報アリ(呂集賢
電第一〇六號)

十四日 前項ニ對シ目下折衝中ニテ近日受領ノ見込ナル旨回答ス

(統醫電第三四號)

十六日 鄂城地区隊ヨリ部隊裝備衛生材料ノ毀損亡失及廢品処分

要領ニ關シ照會アリ (鄂醫電第三五號)

十七日 悟醫電第八號ニ對シ統醫電第三六號ヲ以テ回答ス

二十一日 鄂城地区隊 鄂醫電第二五號ニ對スル回答ヲ打電ス

(統醫電第四五號 第四七號)

二十四日 鄂城地区隊ヨリ衛生材料ノ接收ニ關シ照會アリ(鄂醫電第

三〇號)

二十五日 右ニ對シ回答ス(統醫電第四七號)

同日 武漢衛生材料部ニ於テ軍政部ニ引渡ニシル衛生材料中緊要

品目数量。別紙(統通報第...号)に如く調合之武漢行營及衛生主任に提出ス

二十六日總醫官電第九二號に以テ痘苗並「コレラ」及三種混合豫防接種液所要量之照會アリ

二十七日台ニ對シ統醫官電第五一號に以テ回答ス

同日鄂城地区隊ヨリ豫防接種交付方要求アリ(鄂醫官電第九三號)同日來漢シテリシを連絡料枝「コレラ」豫防接種液一萬名分ヲ交付ス

月間第一五八兵站病院病理試験部ニテ製造セル「コレラ」豫防接種液 一一七、五〇〇〇ニ達ス

右ノ交付狀況左ノ如シ

交付部隊	数量	備考
楊子兵站	一〇〇〇〇	
浚泊場司令部	三〇〇〇	

統通報第三〇〇號

緊要衛生材料調査ニ関スル件

昭和五年三月五日

武漢地區日本官兵善後連絡部參謀長 中山貞武

軍事委員會委員長 武漢行營戰俘管理處

兼處長 劉倚衡將軍閣下

在橋口及武昌衛生材料部ニ於テ接收セラレタル衛生材料中
當軍ニ於テ須要ナル品目數量ヲ曩ニ第二補給司令部衛
生處長ヨリ要求セラレタル所ニ依リ調査提出スルニ付之が文
付方取計ハレ度

追テ本調査表ハ既ニ武漢地區各兵站病院ニ於テ接收セ
ラレタルモノハ計上シアラザルニ付念ニ為申添フ

0060

緊要衛生材料調査表

品目	種数	所要数		接收地	摘要
		元第六方面軍	元第二〇軍		
アドソルビン	瓦		二八〇〇〇	武昌	下痢患者用
アルシリン	〃		三〇〇〇〇	〃	〃
イヒチオール	〃	四〇〇〇〇		〃	外皮病患者用
塩化石灰	〃	二〇〇〇〇		〃	注射薬製造用
ジエロナル錠	筒		三〇〇〇〇	漢口	乗船時船量用
カンフル液	〃	二〇〇〇〇		〃	重症者用
キニーネ液(強)	〃		一二〇〇〇	〃	瘧治療用
クレオソート丸	瓶	七〇〇〇	八〇〇〇	〃	防疫用
クレゾール石鹼液	瓦	五〇〇〇〇	二〇〇〇〇	漢口 武昌	リゾール或ハ救急用
健胃錠	筒		八〇〇〇〇	漢口	〃
高張糖液五〇cc	〃	一〇〇〇〇	三二〇〇〇	〃	重症者用

0061

品名	数量	元第六方面軍	元第二〇軍	計	接收地	摘要
ワカ	筒		三〇〇〇	三〇〇〇	"	外傷用
鴉膽子	瓦	五〇〇〇〇	八五〇〇〇	五八五〇〇〇	"	アノハ赤痢治療用
木タール	瓦	二〇〇〇〇		二〇〇〇〇	"	外皮病患者用
マフニン錠	筒	四〇〇〇		四〇〇〇	瓊口	驅虫用
硼膏	瓦	三〇〇〇	八〇〇〇	三八〇〇	"	外皮病患者用
硫膏	瓦		三〇〇〇	三〇〇〇	武昌	外皮病患者多發不足ニテ
スルファミン錠	筒	二〇〇〇	八〇〇〇	二八〇〇	漢口	
クワエキマ散	瓦		四〇〇〇	四〇〇〇	"	
石炭酸(液状)	瓦	八〇〇〇		八〇〇〇	武昌	"
昇汞塩	瓦	一〇〇〇		一〇〇〇	漢口	消毒用
撒曹	瓦		一〇〇〇	一〇〇〇	武昌	
カリチル酸石灰	瓦	一〇〇〇		一〇〇〇	"	結核性疾患治療用
醋剝液	瓦	一〇〇〇		一〇〇〇	漢口	利尿劑、各病院共不足ニアリ

0062

滅菌 ガーゼ	ガーゼ	ペトリ 皿	脱脂 綿	乳糖	肉エキス	ペプトン	苛性 ソーダ	ロート 錠	硫化 カリ	リチ ネ	硫黄 華	規	脱性 石鹼
〃	反	筒	〃	〃	〃	〃	瓦	筒	〃	〃	〃	〃	瓦
	五 〇〇〇	五 〇〇〇							一 二〇〇		三 五〇〇	一 六〇〇	三 〇〇〇
四 〇〇	四 〇〇	五 〇〇〇	六 〇〇〇	一 四〇〇	一 五〇〇	一 一〇〇	一 五〇〇	七 五〇〇		二 五〇〇		四 〇〇〇	
四 〇〇	五 四〇〇	一 〇〇〇	六 〇〇〇	一 四〇〇	一 五〇〇	一 一〇〇	一 五〇〇	七 五〇〇	一 三〇〇	二 五〇〇	三 五〇〇	二 〇〇〇	三 〇〇〇
〃	〃	〃	武 昌	漢 口	武 昌	漢 口	武 昌	漢 口	漢 口 武昌	武 昌	〃	〃	〃
		檢 疫用		檢 疫用	六 〇 檢 疫用	新 豐 量 一 〇 〇 〇 檢 疫用	檢 疫用		皮 膚 病 患 者 用		皮 膚 病 患 者 用	癩 治 療 用	消 毒 用

0063

試驗管	目	所	要	計	接收地	要
	箱					
				三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	

備考

右表數量ハ武漢地區兵站病院ヨリ返納セル材料中ニナキ為衛生材料部ニ於テ接收セラレタル衛生材料ヨリ補給ヲ要スル品目數量ミテ計上セルモノニシテ武漢地區兵站病院ヨリ返納セル衛生材料ハ所要ニ應ジ補給セラレルコトヲ前提トシテ算出セリ

特ニ「サルバルサン」ハ第三陸軍病院返納品一三〇〇〇箱ニ依存ス

マラリア劑算定基礎左ノ如シ（元第六方面軍ノ）

發生見込患者數 約八〇〇〇〇

再發 兵額ノ三〇%

新感染 〃 三〇%

計 六〇%

一人所要量 二〇瓦

統通報第三〇七號

患者後送計畫ニ關スル件

昭和三年三月二日

武漢地區日本官兵善後連絡部參謀長中山貞武

軍事委員會委員長武漢行營戰俘管理處兼處長

劉倚銜將軍閣下

首題ノ件別紙ノ如ク送付スルニ付配船ニ關シ配慮相煩度

0065

別紙

患者後送計畫

一 武漢地區ヨリ、要後送患者數

備考	區分	武漢					計
		第一五八兵站病院	第一七八兵站病院	第一八二兵站病院	第一二八兵站病院	患者療養所(母)	
各項患者數ハ二月末現在調トス	重症	六七〇	五八二	三一	五二七	七	一、六〇〇
	其他	一、六〇〇	一、七四二	五、五三	一、二三〇	一一〇	三、二七〇
	計	三、二七〇	三、三二四	八、六四	一、七五七	一一七	七、三三二
	總計	三、〇七七	五、二七四	一、三〇	一、二二七	一一〇	七、三三二
	計	三、〇七七	五、二七四	一、三〇	一、二二七	一一〇	七、三三二

二 第一項重症患者ハ病院船若クハ患者ガ臥床シ得ル如ク施設セル船ヨリ輸送セラレ度 搭載人員ハ其ノ都度定ム

三 武漢地區患者(重症者ヲ除ク)後送計畫左ノ如シ

0066

四

ノ如シ

第一項患者ノ外復員迄ニ豫想セラル、要後送患者數先

備考	計	5	4	3	2	1	順送 序	患者 數	護 送員	患者 差出病 院
一 各項人員ハ船種搭載量ニヨリ變更スルモノトス 二 細部ハ別ニ定ム	五 二〇〇	七 〇〇	七 〇〇	一 二〇〇	一 三〇〇	一 三〇〇				
	八 〇〇	一 〇〇	一 〇〇	二 〇〇	二 〇〇	二 〇〇				
		第一二八兵站病院	第一二八兵站病院	第一五八二七八一八二兵站病院	第一七八兵站病院	第一五八兵站病院				

重症者 一、〇〇〇名

其ノ他患者 二、〇〇〇名

五 日僑民患者中重症者ニ對シテハ第二項ニ準シ附帶家族（

0067

重症患者一名ニツキ平均五名(共病院船若クハ之ニ準ズルモノ
ニヨル下航ヲ考慮セラレ度 患者數左ノ如シ

重症患者 一〇〇名
附帯家族 五〇〇名
計 六〇〇名

0068

説明セルニ拘り依然回歸熱(部隊現在患者数の五割)ニ對テハ「サハル
 サ」ノ 支付量ハ金ノテ「ア」(部隊患者数約一割)ニ對テハ僅クニ
 硫規末ニ付ノ 支付量ヲ決定セラレタルニ過キズ 又傳染病好發期ヲ控ニ
 「ア」ノ 支付ハ認合シラズ 右決定數量ニ對テモ在橋口支付部隊
 ニ於テハ日下軍ヨリ接收セシ衛生材料ノ 現品点検封緘済ナルヲ理由ト
 シテ容易ニ支付セラレス 二月二十六日ヨリ連日三回出頭セルモ遂ニ現品
 ヲ支付セラレス 三月一日第三衛生大校補給第一文庫(江漢中隊)ニ於テ
 藥物ニ一兵 約三十磅ヲ受領セルコトナリ
 此ノ際同行セル基團長(友理處)副官ヨリ 査察官ニ特ニ報告シ
 「サハル」ニ付ノ 支付ヲ受ケタルモ硫規末ニ付ハ 欽劑ニ付同
 ニ(即チ硫規末 四割乃至相高)削減セラレヨリ 重岡地ニ隊ニ於テハ
 「サハル」ナキ爲 十二月同地ニ集結以來 一月二十日迄ニ回歸熱ニ
 因ル死セ者三ニ達 其ノ後ノ 疾患ニ因ル死セ者三ニ達ニ付テモ
 出たり 然レモ衛生材料ノ 補給者ノ 状態ニ付テハ 部隊ニ由ルニ

(納谷 典・京東)

0070

供手傍觀ス外ナリ此旨訂トシテ復員ヲ自ラ控ニ衛生材料ヲ交付
シレサル為ニ退育ヲ死セシムルハ吾人ノ敵身トシテ其能ハク人
ノ患ハ首ニシテ蓋ヒ其ニ慕ルニ堪ルニ堪ルナク

茲ニ科ニ委員方ノ博愛精神ニ并ヘテ承忠ハ自ラノ言ニ對スル所
ノ衛生材料ヲ補給シテハ如ク配屬ニ相煩度重クテ而テ請人

尚衛生材料庫伴有ノ現品ト共ニ校封紙セル後ト雖モ日本軍
ノ衛生材料ハ日本軍ニ補給スト明言ニシテ其ニ其ニキリ流

キ之ヲ補給スルニト信スルモ貴軍之承ク度

0071

